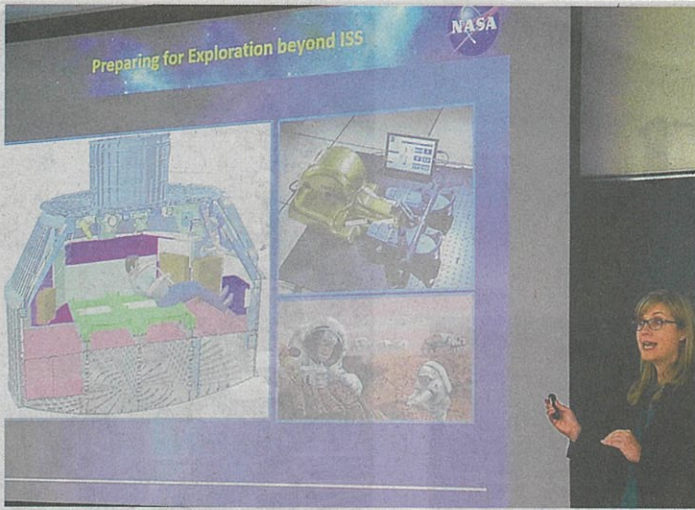


火星探査「学生の力を」

京田辺の同大 NASA研究者講演

NASA(米国航空宇宙局)で宇宙空間に
おける身体機能の維持
を研究するアンドレア
・ハンソン博士が10
月、京田辺市多々羅
キャンパスで講演し、
飛行に向けた実験を紹
介した。



火星への有人探査飛行に向けた運動機能維持の
研究を紹介するNASAのハンソン博士(京田
辺市多々羅・同志社大京田辺キャンパス)

地球と異なる重力環
境への人の適応につい
て、同大とNASAが
共同研究することが決
まり、同大宇宙医学
研究センターがハン
ソン博士を招いた。

火星有人探査は片道
6カ月の宇宙飛行後に
火星に着陸する構想。
ハンソン博士は「地球
と違い、火星で出迎え
てくれる人はいない。
(運動機能を維持し)
自分で歩けるようにし
ないといけない」と説
明、国際宇宙ステー
ションなどでの実験を
解説した。

無重力・低重力環境

の再現や運動プログラ
ム開発などで同大
との共同研究に期待
を示し、会場の学生
に「あなたたち学生の
力が必要」と語り掛け
た。

(稲庭篤)